

| | | | | |
|-----------------|--|-----|---------------------------|--------|
| 講義ユニット名 | 組織学各論 | | 所属科目名 | 人体構造学Ⅱ |
| 講義ユニット 責任者 | あいざわ ひでのり 相澤 秀紀 | 所属 | 神経生物学 (内線 5115) | |
| | | メール | haizawa@hiroshima-u.ac.jp | |
| 授業方法 | 講義(講義補助用プリント配布)・実習 講義の最後にスライドにて実習標本を供覧 | | | |
| 概要 | 医師となるために必要な解剖学的知識の習得にむけて、人体を構成する各器官(中枢神経系を除く)の細胞・組織構築について理解することを主な目標とする。 | | | |
| 講義ユニットの 到達目標 | <p>骨・軟骨・関節・靭帯の構造と機能を説明できる。</p> <p>血管とリンパ管の微細構造と機能を説明できる。</p> <p>心筋細胞の微細構造と機能を説明できる。</p> <p>心筋細胞の電気現象と心臓の興奮<刺激>伝導系を説明できる。</p> <p>骨髄の構造を説明できる。</p> <p>脾臓、胸腺、リンパ節、扁桃とPeyer(パイエル)板の構造と機能を説明できる。</p> <p>赤血球とヘモグロビンの構造と機能を説明できる。</p> <p>白血球の種類と機能を説明できる。</p> <p>血小板の機能と止血や凝固・線溶の機序を説明できる。</p> <p>歯、舌、唾液腺の構造と機能を説明できる。</p> <p>食道・胃・小腸・大腸の基本構造と部位による違いを説明できる。</p> <p>肝の構造と機能を説明できる。</p> <p>膵外分泌系の構造と膵液の作用を説明できる。</p> <p>気道の構造、肺葉・肺区域と肺門の構造を説明できる。</p> <p>肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。</p> <p>甲状腺と副甲状腺<上皮小体>から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。</p> <p>女性生殖器の形態と機能を説明できる。</p> <p>男性生殖器の形態と機能を説明できる。</p> <p>精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。</p> <p>陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる。</p> <p>腎・尿路系の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる。</p> <p>腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。</p> <p>皮膚の組織構造を図示して説明できる。</p> <p>皮膚の細胞動態と角化、メラニン形成の機構を説明できる。</p> <p>乳房の構造と機能を説明できる。</p> <p>眼球と付属器の構造と機能を説明できる。</p> <p>視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。</p> <p>外耳・中耳・内耳の構造を図示できる。</p> | | | |
| 講義日程 | 別紙日程表を参照のこと | | | |
| 出席の取り扱い | 講義については3分の2以上の出席を試験の受験要件とする。実習については全ての出席を試験の受験要件とする(病欠など止むを得ず欠席する場合は担当教員に申請すること)。 | | | |
| 評価項目 | 到達目標の達成度(基本的理解と知識の応用) | | | |
| 評価法 | MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。 | | | |
| 履修上の注意 アドバイス | 講義と実習を対にして進めるので、知識を整理して実習にのぞむこと。 | | | |
| 推奨参考書 | 人体の正常構造と機能(第2版 全10巻縮刷版、日本医事新報) 最新カラー組織学(西村書店) | | | |